

## 令和7年度 宮城教育大学附属特別支援学校の研究概要 ～令和8年1月末現在～

運営委員氏名 ( 山路 祐太 )

研究テーマ	児童生徒の自分らしい未来につながる「個別最適な学び」の探究 ～学びをつなぎ、深める単元づくりを通して～
研究目標	児童生徒の学びを単元間で連続的に設計する枠組みと、学びの姿を記録・分析・可視化する仕組みを構築し、「指導の個別化(教師による指導の調整)」に加えて、「学習の個性化(子供自身による学びの調整)」をこれまで以上に重視することにより、「個別最適な学び」を単元内の学びの“点”としての確に捉えつつ、単元を越えて次の学びへつながる“線”として積み重ねる実践の在り方を明らかにする。
研究内容・方法 研究計画等	<p>1) “学びをつなぐ視点”に基づく単元構成の検討・改善</p> <p>▶学部ごとに“学びをつなぐ視点”を設定し、単元間のつながりを検討する。</p> <p>2) 児童生徒の学びの姿に関する記録・評価の蓄積と活用方法の検討</p> <p>▶「学びの蓄積シート」に、児童生徒の日常的な学びの姿を記録・蓄積する。</p> <p>▶「Sシート」によって、各教科等の視点に基づいた学習の到達度や、研究の視点に基づいた学びの姿を整理・評価する。</p> <p>3) 生成AI を用いた記述データの分析・可視化システムの構想・試作</p> <p>▶児童生徒の学びの姿に関する記録・評価を「学習の到達度」「学び方の特徴」「学びの文脈」の三つの切り口から分析・可視化するシステムのワークフローについて検討する。</p> <p>▶本校独自のデータベース「M-FOCUS」と連動し、児童生徒の学びの姿に関する記録・評価を、即時的かつ直感的に可視化するシステム「MIERU+」を構築する。</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>1年次は、学部ごとの「学びをつなぐ視点」を手掛かりに単元配列を見直し、複数単元を連続性・系統性をもつものとして構成しようとする視点が校内に形成された。10月以降には、教師の意図だけでなく、児童生徒が実感する学びの積み重なり(学びの文脈)から単元を捉え直す方向へ焦点化し、児童生徒自身による「やりたい!」「なぜ?」「自分だったら?」といった意味付けを起点とした授業実践が活発化した。</p> <p>「学びの蓄積シート」「Sシート」の運用を通して、記録・評価を単なる事後整理に留めずに、次の単元構想に生かす試行が進み、生成AIによる要約・傾向分析を教師間の検討材料として共有する実践も生まれた。</p> <p>生成AIを活用した分析・可視化システム「MIERU+」は、学習の到達度のマッピングシステムとAI分析チャットなど一部機能の試作がなされた。また、生成AIは教師の判断を代替するものではなく、教師の省察を支える補助ツールであるという理解も進みつつある。学び方の特徴・学びの文脈の即時可視化等は今後構築を進めていくこととなる。</p> <p>一方で、単元構想→記録・評価→分析・可視化→次の実践という循環を、どのような手順で日常化するかということや、記録の負担感や活用のばらつきを抑えつつ校内全体へ展開することが今後の課題となっている。</p>